

残薬を確認することでアドヒアランス向上へ

プレアボイドとは薬学的ケアから患者の不利益（副作用、相互作用、治療効果不十分など）を回避あるいは軽減した事例を意味します。今回は持参薬確認時に薬剤の管理状況を聴取することでアドヒアランスを確認でき、適切な指導につながった事例のプレアボイドを紹介いたします。

患者背景

- ▶ 正中口蓋腫瘍にて緊急入院した患者。
初回面談時、持参薬確認を行うため訪室。

薬剤は薬袋から出し、すべて同じ箱に入れて自己管理されている。

Cさん



Cさんの妻



こんにちは。
お薬の確認に来ました。
普段Cさんが使われているお薬はお持ちですか。



薬剤師

お薬持ってきてますよ。
きちんと今までのお薬もこの箱の中に全部まとめて入れて
います。余った風邪薬なんかもね。おじいさんは晩酌
すると薬を忘れてたりするから、結構余ってるんです。

たくさんありますね～。
いつからのお薬か分かりますか？
古いお薬だと使用期限が切れてしまっている場合があります。



どうでしょうかねえ。
お薬が始まったのは5年位前だと思います。
お薬にも期限ってあるんですね。



おっと！ニトロペンは期限が切れていますね。
先生に新しいものを出してもらいましょうね。



お薬にも使用期限があるので、基本的には必要があればその時に
受診し、**指示通りに飲み切ることはとても重要**ですし、
お薬が余るようであれば、**医師や薬剤師に相談**してくださいね。

わかりました。これからはおじいさんと一緒に薬の管理に
気を付けていこうと思います。



残薬の確認を行い、適切に指導することでアドヒアランスの向上に貢献できた。